

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つむぎ吉備中央（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月11日		～ 令和6年11月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年10月24日		～ 10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達段階に応じたきめ細やかな個別支援や小集団活動支援の実施をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 複数のアセスメントツールの活用 子どもたちが活動に意欲的に参加できるように、子どもの興味関心に沿った教材の工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> より具体的に支援計画の作成に取り組む。 子どもの興味関心を知るために、保護者と積極的に話をする。 子どもの興味関心を知るために、職員間の情報共有をより行う。
2	療育を相談できる機会がある	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪利明先生の療育巡回の機会がある。 理事長の巡回指導を必要なタイミングで受けられることができる。 毎週支援会議を実施して支援の共有化を図る。 法人の学習会で事例検討ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行き詰まった時、自分たちから積極的に相談をしていく。 相手にわかりやすく相談ごとを伝えるスキルを各々が獲得する。
3	小学校に訪問することができ、集団の中での子どもの様子を見る、支援することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの通っている小学校に訪問支援を行い、子どもたちの成長や課題を確認しながら日頃の療育に生かすことができる。 先生方との情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの行動を障害特性の視点を持って話ができるようにする。 学校の先生たちにより信頼していただけるように自分たちの療育やコミュニケーションスキルを身に付ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中学生向けのプログラムの不十分さ	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動や作業スキルの取り入れの少なさ ちょっとした暇つぶしになるような余暇の過ごし方の支援検討が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度中学生クラスを設定する。 発達年齢の課題は個別でしっかりと取り組み、生活年齢的なSST課題や作業活動などについては小集団活動で取り入れていく。 文献購入等により情報収集し実践してみる。
2	職員間のコミュニケーションを高める状況作りの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 自分のデスクで食事をするため、仕事と休憩の境目がお互いに理解しにくい。 自分のデスクで会議をすることで、目の前のパソコンや書類に目が行きがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の部屋を確保し、休憩と仕事のメリハリをつけて、話がしやすい状況を作る。 支援会議は会議デスクで実施し、会議の内容に集中しやすくする。必要な情報はスクリーンで確認する。
3	・保護者に療育環境や療育教材についてイメージが伝わっていない。	<ul style="list-style-type: none"> 毎年のアンケート回収率が低い。 長期休暇の利用頻度も低い。 →情報の不透明さがあり、保護者に対する興味関心をひけていないのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSで紹介をしていく。 申し送り場所の再検討をして環境が見える工夫を考える。 療育参観の発信を個別に声かけしてみる。 親子参加型の活動の検討をする。